

「子どもが楽しめてよかった」から 「子どもと一緒に楽しめた」へ

おもちゃが持つ笑顔の魔法を広める
つながりの伝道師

田中 京子 さん

市民活動グループ・おうちワークショップで、木のおもちゃを通して子どもから大人まで幅広く交流できる場所づくりに励む田中京子さんに話を聞きました。

初めて出会う芸術品

安曇野市に越してきたのは2011年12月のこと。それまでは幼稚園や児童館などで子どもと関わる仕事をしてきましたが、子どもだけではなく多世代にわたる交流をしたいと思い、活動を始めました。

グループが発足した初年度は、マルシェやクリスマス会などのイベントを数回行いました。しかし、どのイベントも当日は交流があるもののその時限りで、恒常的なつながりに発展していきませんでした。そこで目を付けたのがおもちゃです。



多種多様なおもちゃの中から私たちが使うのは「グッド・トイ」の条件を満たすものです。その中でも、木のおもちゃを使うことを特に大切にしています。木という自然物を使うことでぬくもりや作りの手の思いを感じられるし、親子何代に

もわたって引き継ぐこともできます。全国におもちゃ美術館があるように、おもちゃは子どもが生まれて初めて出会って、触れる芸術品。だからこそ、その質感や香り、ぬくもりなど五感を使って遊べる木のおもちゃにこだわり、世代を超えたコミュニケーションのツールであることを伝えながら活動を続けています。

多世代を笑顔にするツール

おもちゃは「子どもが遊ぶもの」というイメージがありますが、そうではありません。あるイベントで、親子三世代で参加してくれた家族がいました。そこで目にしたのは、子どもが使った散らかした木製パズルを片付けるおばあちゃんの姿。ごく普通の光景かもしれませんが、おばあちゃんには「これ、どこだっけ」などと笑いながら片づけをしていました。そして「子どもが喜んでくれてよかった」ではなく「一緒に楽しめてよかった」という感想をもらいました。そのとき、おもちゃは子どもだけのものではなく、幅広い世代を笑顔にできるツールであるということに気がしました。



神奈川県相模原市出身。多くの人との交流を求め、2022年6月に市民活動グループ・おうちワークショップを発足し、精力的に活動中。保育士/おもちゃコンサルタント/木育インストラクター



おうちワークショップ
Instagram

MEMO
○グッド・トイ
「健全」「ロングセラー」「遊び・コミュニケーション尊重」の3つの方針を満たす、おもちゃの専門家が選定するおもちゃのこと。
○さとふる
市民・企業・行政が連携し、より多くの人々が里山に関心を持ち、楽しみ、里山の再生に貢献できるような仕組みづくりを目指す活動。

は無限に広がり、そして多世代の交流と笑顔が生まれます。安曇野は木に囲まれ「さとふる」が代表するように暮らして木を取り入れる考え方が根付いています。その利点を生かし、このほど「安曇野に木育を推進する会」を立ち上げたので、本年は木育キャラバンを行う予定です。これらの活動を楽しみながら進めていきたいです。

川下り×桜 清流に乗ってお花見

4月12日・13日 あかしな龍門湖さくらまつり



龍門湖公園の桜と地域の魅力を楽しむイベントが開かれました。快晴となった祭り初日は、満開の桜をバックに太鼓やバンドの演奏などが祭りに花を添えました。前川では、桜を見ながらラフティングを体験する水上花見やライトアップも行われ、春のひとときを思い思いに過ごしている参加者の姿が見られました。

家族で水上花見を体験した牛越智之さん(35・明科七貴)は「思ったよりも桜が近くで見られて満足。川下りをしながら見上げる桜は普段より見応えがある」。娘の咲智さん(9)と万智さん(6)は「ラフティングはドキドキしたけど楽しかった」と笑顔で話してくれました。

伝 統をつなぐ 力強い一歩

4月27日 岩原山神社お舟祭り



5年ぶりの開催となった昨年に続き、本年も地区外から参加者を募り、堀金岩原地区の山神社のお舟祭りが行われました。雲一つない青空の下、総勢約60人の担ぎ手が約1トのお舟を国営アルプスあづみの公園から900mの坂道を担ぎ上げました。境内で神事を行った後、氏子らは豪快にお舟を転がして壊し、五穀豊穡を祈念しました。

昨年に引き続ききょうだいで担ぎ手として参加した和田真輝さん(25)は、「昨年から女性も担ぎ手として参加できるようになり、地元のお祭りにしっかり関わっている実感がある」と笑顔で汗をぬぐっていました。

さわやかな春の風に乗って 残雪の北アルプスに響く 春のしらべ

4月29日 第42回早春賦まつり

安曇野に春を告げるイベントとして親しまれている早春賦まつりが開かれました。当日は、穂高文化協会を中心に特別編成されたコーラスグループによる合唱とふるさと観光大使の上松美香さんとアルパ・ミニハーブ隊による演奏が行われ、安曇野の春の風と共に音楽が響き渡りました。フィナーレには多くの人から歌い継がれる「早春賦」を出演者と来場者全員で合唱し後世につなぎました。また、会場内ではお茶とまんじゅうの振る舞いや物産の販売なども行われ多くの来場者でにぎわいました。コーラスに参加した竹内香代子さん(89・穂高柏原)は「歴史ある曲をこの場所で歌えてすがすがしい気持ち」と話し春の訪れをかみしめていました。

